

FM English Basic レポート

グループ：6 期生 グループ B

1. 背景

アカデミックライティングとは、論文やレポートといった学術的な文章を作成するためのスキルを指す。このスキルには、序論・本論・結論という明確な構成に従い、論理的な展開を行うことや、適切な語彙を選び、明確かつ正確な表現を用いることが求められる。アカデミックライティングに必要な知識を独学で習得することは可能ではあるが、学術的な文章作成に関する厳密なルールを完全に理解し、遵守することは難しい。特に、アカデミックライティングの基礎を体系的に学ぶ機会が少ないため、誤った方法で論文を執筆し、投稿した場合、その論文が受理される可能性は非常に低くなることが予想される。このような背景から、アカデミックライティングを学び、習得することは、質の高い学術論文を執筆する上で不可欠であり、その重要性は高いと考えられる。

2. 目的

短期間の集中講義を通じて、アカデミックライティングの基礎を理解し、科学的な文章を執筆するためのスキルを身につける。さらに、この講義では、英語でのプレゼンテーションに必要なスキルも学ぶことができるため、それを通じて科学的な内容を英語で分かりやすく伝える能力を向上させる事を目的とする。

3. 授業内容

本講義は神田外語大学の Kevin Knight 教授を講師として迎え、2024 年 8 月 5 日から 8 日までの 4 日間、医学部 6 号館（星陵キャンパス）1 階の講堂にて対面で行われた。前半の 3 日間の講義は、Stephen Bailey 著の『Academic Writing 第 5 版』の内容に沿って行われた。授業内容は、「The Writing Process」「Elements of Writing」「Language Issues」「Vocabulary for Writing」「Writing Models」の 5 つのパートで構成され、剽窃や引用方法等の基本的な規則を始め、論理的な文章を書くためのアプローチ方法、更には受動態と能動態、a と the の使い分け等の文法的な内容まで、アカデミックライティングの基礎を包括的に学習した。実際の授業の流れとしては、まず、教科書の内容に沿って Kevin 教授から議題が提示され、その議題についてペアで数分ディスカッションした後、教科書の問題を解き、最後に Kevin 教授から解説を受ける、というものであった。更に、最終日には各自がスライドを準備し、自身の研究内容に関連する重要な論文の紹介を 5 分で行った。その際には、教科書で学習した論文の基本構成に従い、Introduction → Methods → Results → Discussion → Conclusion の流れで発表を行った。発表後、ランダムに割り当てられたペアが発表の内容について、肯定的な意見と建設的な批判を含む簡単な評価を発表する他、質疑応答を通じて参加者全員で知識の共有と理解を深めた。

4. 結果

今回の「English Basic」講義を通じて、特にアカデミックライティングとプレゼンテーションに関する重要なスキルを深く学ぶことができた。講義は論文のプランニングや構成に関する基本的な理解から始まり、徐々に引用方法や細かい文法に至るまで、段階的に知識を深める形で進行した。まず、論文作成のプランニングにおいて、背景、目的、方法、結果、結論といった基本構成を明確にすることの重要性を再確認した。この理解により、論文全体の流れを論理的かつ一貫性のあるものにするための基盤を築くことができた。特に、研究の目的と方法がしっかりとリンクし、結果と結論がそれをサポートする形になるような構成が求められることを学んだ。次に、他人の研究を引

用する際の適切な方法について学んだ。特に、適切なパラフレイズの技術や直接引用のルール、出典の明確な記載方法について理解を深めた。これにより、剽窃を避けつつ、信頼性の高い論文を執筆するためのスキルを身につけることができた。さらに、文法や単語の選択においても注意を払うことの重要性を学んだ。例えば、接続詞や冠詞の適切な使用、単数・複数形の使い分け、能動態と受動態の選択など、細部にわたる注意が論文の明瞭さや正確さに大きく影響することを認識した。これらの細かい点に注意を払うことで、より洗練された英語の表現を身につけることができた。全体を通して、講義を通じて得た知識とスキルは、今後の研究活動や学術的な発表において大きな役割を果たすと確信している。

5. 研究や仕事に活かせる点

本講義で習得したアカデミックライティングとプレゼンテーションのスキルは、今後の研究活動に大きく貢献すると考えられる。論文執筆では、基本構成の重要性や論理的な展開方法を学んだ。また、適切な引用技術を身につけ、剽窃を避けつつ信頼性の高い論文を書く能力を向上させた。文法や語彙の正確な使用法も習得し、より明瞭な文章作成が可能になった。さらに、プレゼンテーション実習を通じて効果的な発表技術を学んだ。これらのスキルは、質の高い論文執筆と効果的な学術発表に不可欠であり、今後の研究活動に大いに役立つだろう。

6. 改善点・限界点

本講義における最も重大な限界点は時間的制約であった。教科書内の基本的な内容から実践的な発表までを 4 日間で行うというスケジュール上、各自フォローしきれない部分も少なくなく、理解が追いつかない部分も見受けられた。教科書も基本的とは言え、包括的な内容のため学習量としては多く、3 日間で身につけるのは困難であった。また、各学生の英語学習背景に差があり、授業内容の理解度に差が見受けられることもあった。加えて、今回学習したことを今後も活かしていくためには、各自の継続的な学習が重要であると考えられる。これらの点を踏まえると、本講義の理解、定着には限界がある上、各人でその度合いに差が生じてしまうことが懸念される。

7. 結語

今回の「English Basic」講義では、アカデミックライティングの基礎から、より高度な引用技術や文法の精度向上に至るまで、幅広いスキルを習得することができた。特に、論文の構成をしっかりと計画し、それに基づいて他人の研究を適切に引用する方法を学ぶことで、今後の論文作成やプレゼンテーションにおいて、自信を持って取り組むことができると感じている。また、講義で得たフィードバックや他の参加者との意見交換を通じて、自身のスキル向上のための具体的な課題も明確になった。今後は、この講義で得た知識を実践に移し、さらに深めることで、より優れた研究成果を発信していくことを目指していく。また、今回学んだ内容をもとに、他の研究者との協力を通じて、より効果的な研究活動を展開していくことを期待している。短期間ではあったが、この講義を通して得た収穫は非常に大きく、今後の研究活動において確かな基盤となることを実感している。